

聖和短期大学通信 No. 6

ごあいさつ

寒さの中にも春の訪れを感じる季節となりました。耳をすませば聖和の森からこんな声が聴こえてくるようです。

「もういいかい」「まあだよ」
あっちの こっちの 木の芽の なかで
葉っぱが かくれんぼ しているよ
花が かくれんぼ しているよ
けども 今に 春風 吹けば
見つかっちゃうね 葉っぱも 花も
(清水たみ子「きのめ」より)



卒業生のみなさまにはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

聖和短期大学は、2014年度も多くの方々のお力添えと祈りに支えられて歩み、無事にしめくくりの時を迎えることができました。3月にはみなさまの後輩たちが、2年間を共に過ごした学び舎を後に、幼稚園、保育所、認定こども園、乳児院、障害者支援施設などへと旅立ちます。

さて、2014年は長い時の流れ（歴史）に思いを巡らせる年でありました。関西学院は9月に創立125周年を迎え、創立記念式典をはじめさまざまな記念行事をとおして先駆者たちとその125年の歩みを振り返り、思いを新たにする時がもたれました。また聖和キャンパスでは聖和史編纂作業が進められ、3月には聖和の歴史をまとめた『Thy Will Be Done—聖和の128年』の刊行が予定されています。「時の流れ」といいますように「時」は止まることなく過ぎて（流れて）いきます。しかし私たちの「時」はただ流れ去るだけのあてもない歩みではありません。その流れには源があり、めざすところがあります。そして人はその時の流れのなかで「新しい時」を創っていきます。先駆者たちがその時代の「新しい時」を創りだしたように、今を生きる私たちも、また未来を生きる子どもたちも「新しい時」を創っていきます。私たちは分断された時を生きるのではなく、その源を思い起こし、めざすところを確認しながら「新しい時」を創っていくのではないのでしょうか。

聖和短期大学が関西学院の一員となってから早6年が経とうとしています。この3月で学長の任期を終えることになりました私にとりましては、振り返れば長いようで短い6年でした。不安な思いの出発ではありましたが、新しく与えられた環境のなかで様々な新たな出会いに恵まれ、一年一年と新しい時が創られ、紡がれてきたように思います。そして何よりも、時の始めであり源である神さまが共に歩んでくださる時でありました。

刊行予定の聖和史の書名『Thy Will Be Done』は、主の祈りの一節「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」から採られています。時を超え、私たちの思いを遙かに超える神さまの愛と意志のもと、聖和短期大学はこれからも一年一年と新しい時を、希望に満ちた時を創りだしていきたいと思います。在任中、卒業生のみなさまからいただきました多くの温かい励ましとお力添えに心から感謝を申し上げますとともに、4月より新学長のもと新たな歩みを始めます本学に今後も変わらずご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

学長 広渡 純子

～2015年度の主なスケジュール～ (2015年4月～2016年3月)

入学式	2015年	4月1日
夏のオープンキャンパス	6月21日、7月19日、9月6日	
ホームカミングデー		9月6日
研修会（卒後支援）		11月28日
短期大学クリスマス礼拝		12月10日
卒業感謝礼拝	2016年	3月16日
卒業式		3月17日
春のオープンキャンパス		3月25日

※上記日程は予定です。変更等がある場合は、聖和短期大学ホームページにてお知らせしますので、ご確認ください。

連絡先 聖和短期大学事務室

住所 〒662-0827 西宮市岡田山7-54

電話 0798-54-6504

E-mail tandai-jimu@kwansei.ac.jp

URL http://www.kwansei.jp/seiwa_j_college/

2015年3月1日発行

学校法人関西学院 聖和短期大学

広渡純子学長の任期満了にともない、2015年4月1日より、千葉武夫教授が学長に就任いたします。
学長就任にあたって、千葉新学長からのメッセージ届いておりますので、ご紹介いたします。

～学長就任にあたって～

卒業生の皆様、ますますご活躍のことと存じます。そして、いつも本学のことをお覚えいただき、ありがとうございます。

本学は6年前に関西学院との法人合併をし、「聖和大学短期大学部」から「聖和短期大学」と名称変更をいたしました。広渡学長が新しい学校を創る作業を全力で取り組み、本学は関西学院の運営する短期大学として、関西学院の教職員、幼稚園、保育所、児童福祉施設、同窓生など、多くの人に支えられて大学運営を続けています。「新しきうたおこれ 空を指す若葉の列よ この国にいしずえ深く 光の種は蒔かれたり となりびとに手をさしのべ 幼きもの友として 神の畠を耕すために …」学歌「新しき歌」も、関西学院の校歌「空の翼」とともに、入学式、卒業式等で歌われています。

本学が直面している大きな課題は、少子化が進行し大学に入学する18歳人口の減少の問題です。特に本学のある兵庫県の子の18歳人口は激減しています。全国的な傾向ですが、大学の定員数よりも大学を希望する高校生の数が少なく、多くの大学が受験生獲得のため様々な取り組みを行っています。教育・保育の分野は、まだ希望する高校生が多いとの予想から、これまでこの分野に特に関係のなかった大学が進出し、子どもに関する学部の新設が急増しています。受験生確保のため、大学の存続をかけて競争がはじまっているのです。本学は、このような非常に厳しい状況下におかれております。卒業生の方々に是非ともお願いしたいことがあります。それは、保育の素晴らしさについて多くの方にお話しいただき、「保育を学びたい」「保育の道に進みたい」という人がいらっ

しゃいましたら、ぜひ本学をご紹介いただけたらと存じます。
さて、2015年度より「子ども・子育て支援新制度」がはじまりました。これは、すべての子ども・子育て家庭を対象に、幼児教育、保育、地域の子ども・子育て支援の質と量の拡大を図ることを目的としています。幼稚園、保育園、認定こども園などが、今後どのような変わっていくのか、まだ予測がつかみませんし、今模索している段階かと感じております。今後制度が変化しても「保育は人の手によって行われる営み」であり、子どもの育ちに大きな影響をあたえるのは「保育者」です。子どもを取り巻く社会情勢や生活環境が大きく変化し「子どもが子どもらしく」育つ場が減少しています。子どもの心の動いている時を見極め、共感したり、見守ったり、導くなど、その時にあった適切な援助を瞬時に判断することは、子どもの育ちに大きな影響を与えることでしょう。今こそ「子どもの経験の質」を豊かに提供できる保育者が必要なのです。

本学は、子どもの成長を喜びとし、保育を学ぶ貴重な学生に対して、「伝統」と「豊かな環境」と本学の学生の学びのために惜しみなく力を注いでくれる「人材」（教職員・同窓生・現職の方々など）を活用し、社会に愛される立派な人材を今後も養成してまいりたいと思います。今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。



新学長 千葉 武夫
(2015年4月1日就任)

☆認定ベビーシッター資格登録更新手続きのお知らせ

2009年度（2010年3月）迄の卒業生で認定ベビーシッター資格を取得された方は、登録更新を迎えましたので、お手続きをお願いいたします。

なお、資格更新期限は5年間となっておりますので、お手許の登録証（カード）を確認のうえ、更新の該当年度にはお手続きいただきますようお願いいたします。

※手続き窓口は右記参照⇒

【手続窓口】

公益社団法人 全国保育サービス協会

(旧称：社団法人 全国ベビーシッター協会)

〒160-0017 東京都新宿区左門町 6-17 YSKビル7F

Tel.03-5363-7455 E-mail info@acsa.jp

※手続の詳細はこちらのURLへ

<http://www.acsa.jp/html/infomation/index.htm>

この度、2015年3月31日付で、宇都宮正人教授および丸尾喜久子教授の両先生がご退職されることとなりました。両先生ともに34年間という長い間、聖和短期大学の発展にご尽力されてきました。ここに両先生からの在職中の思い出や卒業生の皆さまに向けた感謝を綴ったメッセージが届いておりますので、ご紹介いたします。

～ふり返れば～

宇都宮 正人

1981年4月に当時の学校法人聖和大学に着任して、この3月末で34年になります。その間名目上の所属が動いたこともあったようですが、圧倒的に長い期間、名実ともに聖和短期大学（一時聖和大学短期大学部）の教員として働かせていただきました。当初はほぼピアノレッスンのみの担当だったのが、やがて基礎演習が加わり、それが研究演習（ゼミ）と交替して就職指導もするようになり、はては施設実習の担当にも入るなど、保育者養成校に所属する者として多様な仕事をしてきました。ただ、元来それほど器用なたちではなく、そのすべてを満足にこなしていたとはとてもいえないのが大きな反省点です。

その中で、特に印象深いのが、2年生の「ゼミ（時期によって研究演習、総合演習等科目名が異なる）」でした。20人内外の、基本的に音楽に興味のある学生たちのクラスを割り当てられ、内容は大原則以外各教員に任されていましたので、そこで得意の音楽の分野を活用することができました。授業以外にもゼミで学祭のステージやクリスマス礼拝に出演したり、ボランティアで児童館のイベントに参加したりしたことが楽しい思い出になっています。ゼミに付帯する就職指導にはもちろん苦労もありましたが、それを通して学生との親密な関係が生まれ、充実した日々を送ることができました。また、可愛らしい外見はそのままに、次第に不思議な母性的な雰囲気漂わせるようになり、保育者らしくなっていく2年生を身近に見るのは感慨深いことでもありました。

ピアノレッスンやゼミが主体で、ある時期から全員にかかわる授業を担当しなくなったこともあり、直接関係を持たなかった学生も少なくありません。それでも、長い年月を通じて、多くの学生の皆さんとの出会いがあったことは本当に感謝です。

思い起こせば、この聖和キャンパスとは、幼い頃現在のダッドレーチャペル（4号館）2階にあった聖和第二幼稚園（現聖和幼稚園）に通っていた時からのつながりになります。この美しいふるさとで長い間働かせていただいたことは、私にとって何物にも代えがたい恵みだと思っています。これからもこの聖和短期大学の素晴らしい伝統が長く続いていくことを心から願っています。



ホームカミングデーでピアノ演奏を披露する宇都宮先生
(2012年9月)



※「神戸のともしび」伴奏する宇都宮先生(左)と歌唱指導の丸尾先生(右)

『阪神淡路大震災20年メモリアル礼拝』

—宇都宮正人 作詞・作曲「神戸のともしび」を共に歌って—

去る2015年1月15日(木)の短期大学ロングチャペルでは、阪神淡路大震災20年メモリアル礼拝を行いました。

震災を覚えて、共同の祈りをささげ、宇都宮正人先生のつくられた「神戸のともしび」を、丸尾喜久子先生の歌唱指導のもと、祈りを込めて歌いました。

震災で失われたものは、帰ってこることがなく、その悲しみはなくなりません。けれども、深い苦しみと喪失の向こうに、希望の小さな灯があることを、お話を聞き、歌いながら、みんなで確かめ合う礼拝のひとつとなりました。

※こちらの様子は聖和短期大学ホームページでも紹介しています。下記URLをご参照ください。

URL : http://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/

この度、2015年3月末に聖和短期大学を退職することになりました。1981年から34年の長きにわたり勤めさせていただきました。この間、多くの先生、職員の方々とおめぐり合い、多くの学生と交わる機会を与えられ、聖和に育てられましたことに心から感謝いたしております。ありがとうございます。

勤め始めた頃は、今の5号館のあたりに建っていた木造2階建ての研究室でピアノのレッスンを担当していました。その後、現在の6号館が完成して研究室の引っ越しがありました。1989年4月からの2年間は休職させていただき、復帰後しばらくしてからはピアノのレッスンだけではなく、音楽関連のクラス授業も担当させていただきました。聖和大学教育学部や人文学部の授業も担当し、歌と笛や太鼓を演奏して学生たちと大変楽しい時間を過ごしました。

1996年からは、アドヴァイザーのクラスを担当させていただきました。2008年まで続いた一泊で行われたフレッシュマンキャンプでは大好きなキャンプファイヤーの係になり、火の回りを太鼓を叩きながら踊りました。あのぞくぞくする感覚は今も鮮明によみがえってきます。2009年以降は泊りがけで行うキャンプはなくなりましたが、新1年生を迎える「歓迎の集い」で、『風になりたい』を皆で楽しく歌い踊りました。

学校礼拝での奏楽の奉仕は、音楽を通して学内学外の様々な方々との心温まる交流の時を持つことが出来、私にとりまして大きな喜びでした。又クリスマス礼拝での特別編成聖歌隊や学生たちの様々なグループ（トーンチャイムグループ、リコーダーアンサンブル、打楽器アンサンブル等々）の指導をさせていただき、教職員の方々や学生たちと共に音楽の喜びに満ちた幸せな時を持つことが出来ました。最近「ホイッカーズ」という吹奏楽グループでクリスマス礼拝や「歓迎の集い」で演奏するのが楽しみでした。コーラス部の顧問も長年させていただき、ある時期には合宿にも同行し寝食を共にしたのも楽しい思い出です。

1年生、2年生のゼミの学生達とは授業以外でも親しく交わることが出来、感謝です。最近の2年間は「颯川美術館」で開催されたコンサートにゼミ生が出演し、聖和短期大学学歌「新しき歌」を合唱して地域の皆様にも聞いていただきました。大変嬉しく誇りに思いました。

阪田寛夫作詞、大中恩作曲 聖和短期大学学歌「新しき歌」（2008年度までは聖和大学校歌）は、いつも私を力づけてくれます。♪新しきうたおこれ 空を指す若葉の列よ この国にいしずえ深く 光の種は時かれたり～♪ 入学式には新2年生全員でこの歌を歌って新入生を迎えています。いつまでも歌いつがれていくことを願うとともに、聖和短期大学の益々の発展を心よりお祈りしています。なお2015年度は非常勤講師として勤めさせていただきますので、微力ながら聖和短期大学の発展に貢献できればと考えています。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

☆末筆ではありますが、宇都宮先生、丸尾先生の永年の聖和へのご貢献に感謝申し上げますとともに、今後、益々のお二人のご健勝をお祈り申し上げ、お礼のことばとさせていただきます。



丸尾先生(前列左端)とホイッカーズとその仲間たち
(2012年4月「歓迎の集い」にて)

☆2015年度ホームカミングデーのお知らせ



卒業生の皆さまにおかれましては、元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。2014年度ホームカミングデーは11月29日(土)に開催されました。今年度は、2011年度卒業生の方を中心に内容を企画していただき、約70名の卒業生がマナホール(学生食堂)に集い、先生方や旧友との懇談など、学生時代を懐かしみ、楽しい一時を過ごしました。なかでも「聖和」や先生方に関するクイズコーナーでは学生時代の記憶を呼び起こしたり、在学時代ではわからなかった先生方の以外な一面を知ることができ、大きく盛り上がりました。さて、2015年度につきましては、2015年度スケジュールにもありますように、9月6日(日)にホームカミングデーを予定しております。皆さまにおかれましてはご多忙とは存じますが、是非、聖和キャンパスへ足をお運びいただき、近況報告や思い出話を花を咲かせていただければと思います。学生時代を思い出し、聖和坂を登って来てください。ご参加をお待ちしております。なお、開催時刻・プログラム等の詳細につきましては、聖和短期大学ホームページ等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませ幸いです。